

NPO法人 富山湾を愛する会
「会誌」



富山湾



富山湾を知り、守り、活かす。

◎ 巻頭言

- 富山湾を愛する会の活動にAIを活用できるか?
- 外に出よう! Allez - y!

- NPO法人「富山湾を愛する会」活動の1年

会誌発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。平成28年4月7日の総会で前理事長の高見貞則氏より理事長職のバトンをはき継ぎ、主たる事務所を射水市に置いて早や10年になろうとしております。

一昨年、能登半島地震により海の中の変化が漁業に影響を与える事態となりました。我々の諸活動は微々たるものかもしれませんが、毎月の藻場観察を通して海を見続けることは大切な事だと感じたわけであり、この会の目的は、身近な海域における藻場づくり、実践活動から得られる海洋情報の発信、海洋資源及び公共施設の活用、さらに富山湾の環境保全への寄与を目的といたしております。

藻場の造成、海洋教室、セミナーの開催、そして地域を知ろうと集う歴史探訪歩きなど、今年も会員の親睦を図りながら何とか計画通りに進めることができました。会員各位に心より感謝御礼を申し上げます。

さて、この会の趣旨にご賛同いただき多額の浄財・寄付の申し出がありました。東京で「鮭しゅんじ」を経営されている橋場俊治氏からであります。ホームページを拝見しますと、将来とも美味しい寿司を楽しみたいと願うのであれば、いまこそ海を大切にして未来の海を守らねばならぬ、との一貫の想いから海洋環境保全活動支援を目的に「海の恵み料」基金を独自に設立されたということでした。我々の目的とするところであり、ありがたく頂戴いたしました。当会も、かけがえのない富山湾とどのように接すれば自然を保持しつつ富山湾の豊かな可能性を最大限に活かせるかを考え、これからも藻場づくり、海洋教室、公開セミナーを3本柱に活動していきたいと思っておりますので、皆様方の変わらぬご協力とご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶の結びに、会の発展と会員の皆様のご健勝ご多幸を心からご祈念申し上げます。

令和8年1月吉日

富山湾を愛する会の活動にAIを活用できるか？

会員 奥川 光治

最近のAI(artificial intelligence, 人工知能)の進展は著しい。企業や官庁、教育研究機関、いろんな団体でも生成AIを日常的な業務に活用していると聞く。パソコンのブラウザで何か検索すると、トップに「AIによる概要」が示される。AIを信用していないものにとってはうっとうしい。情報学研究科の教授だった友人からGoogle Geminiがすごいと聞いて、遅ればせながらAIを試してみることにした。もちろん、無料のAIである。

富山湾を愛する会に関係することとして、「国連公海等生物多様性協定(BBNJ協定)」について200字程度で説明してください。」という質問をGeminiにしてみた。ちょうどBBNJ協定が1月17日に発効したというニュースが流れていたので取り上げた。回答は下記の枠内のとおりであった。

国連公海等生物多様性協定(BBNJ協定)は、国家管轄権の及ばない公海や深海底における生物多様性の保全と持続可能な利用を目的とする国際条約である。海洋遺伝資源の利益配分、海洋保護区の設定、環境影響評価、能力構築と技術移転を柱とし、2023年に採択され、発効に向け各国が批准を進めている。

Geminiより応答速度が少し遅い。「200字程度」について生真面目に守り、文体が「である調」。そう言えば、Geminiはログインなくいいが、ChatGPTはメールアドレスでログインし、年齢確認のため生年月日の入力も必要だった。少し堅い感じだ。内容的に問題なのは、1月17日に既に協定は発効しているのに、「発効に向け・・・」となっている。後述するが、実は「発効」についてはGeminiも認識不足だった。いずれにしても、どういう設計思想で構築したかということだろうが、AIにも個性があり、面白い。

GeminiにしてもChatGPTにしても「不正確な情報を表示することがあるため、生成された回答を再確認するようにしてください。」「回答は必ずしも正しいとは限りません。重要な情報は確認するようにしてください。」と表示されている。私の場合、もともと信用していないので、質問するときは「出典を示してください」と書き加えることが普通である。上記の質問をした翌日に、「出典を示してください」を付け加えて同じ質問をした。出典明示と関係ないが、Geminiのほうは箇条書きがなくなり、ChatGPTと同様にほぼ200字の文章となった。ChatGPTのほうも微妙に文章が変わっている。1日の違いでも思考回路が変わるのか、使用するデータベースが変わるのか、これも興味深い。

Geminiは回答を示した後、こんな追加の質問はどうですかというようなことを聞いてくる。上記の回答の後、「BBNJ協定の発効には60カ国の批准が必要ですが、現在の批准状況や今後の見通しについて詳しくお調べしましょうか?」と聞いてきた。Gemini

国連公海等生物多様性協定(BBNJ協定)は、各国の主権が及ばない公海や深海底における生物多様性の保全と持続可能な利用を目的とした国際条約です。「海洋憲法」と呼ばれる国連海洋法条約(UNCLOS)を補完するもので、2023年に採択されました。

主な柱は以下の4点です：

1. 海洋保護区(MPA)などの区域ベースの管理手段の設置
2. 海洋遺伝資源の利用から生じる利益の公正な配分
3. 環境影響評価の実施ルール
4. 途上国への技術移転と能力構築

地球の表面積の約半分を占める公海に法的枠組みを設けることで、海洋生態系の保護を画期的に進めることが期待されています。

外務省のWebサイトで確認してみたところ、素人の私には要領よくまとめているように思える。ついでに生成AIとして有名なChatGPTにも同じ質問を試してみた。回答は下記のとおり。

も1月17日に既に協定が発効していることを最初は認識していない。付き合って調べてもらったところ、「BBNJ協定は、2025年9月19日に発効要件である60カ国の批准を達成しました。これにより、規定に基づき120日後の2026年1月17日に正式に発効しました。…」と詳細に答えてくれた。

折角なので、BBNJ協定の今後について、最後にまとめておきたい。BBNJ協定は、2026年後半に第1回締約国会議(COP1)が開催される予定だ。生物多様性条約のCOP15で採択された「昆明・モンリオール生物多様性枠組み(GBF)」の主要ターゲットの1つである「2030年までに世界の陸と海の少なくとも30%を保護する(30by30)」という国際目標の達成に向け、公海における海洋保護区の具体化が本格的に議論されることになる。また、海洋遺伝資源から得られる利益を途上国を含めてどのように公平に分配するか、また科学技術の移転をどう進めるかといった詳細

なメカニズムの構築が進められる。さらに、各国が公海において計画する活動について、環境影響評価の実施が義務化される。

この拙稿のタイトルは、「富山湾を愛する会の活動にAIを活用できるか?」とした。ここで示した情報検索・収集は、はじめの一步だが、他の活用法はどうだろうか?講演会の発表や会議の発言の文字起こしや文章の整形、要約などはできそうだ。海に関するとなると、海藻や海草、プランクトンの画像から種類を同定することはある程度進んでいるようだが、近い将来、広く普及するかもしれない。ほかにはどうか?もっというろんな活用法を考えてみたい。

参考文献

外務省 (2025) 国連公海等生物多様性協定 (BBNJ 協定)、
https://www.mofa.go.jp/mofaj/ila/st/pagew_000001_00012.html
WWF ジャパン (2026) 「国連公海等生物多様性協定 (BBNJ 協定)」の発効を歓迎、
<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/6169.html>

外に出よう! Allez - y!

会員 二口 傑

私は外国に行くのが好きだ。外国の空気を吸うと日本のようにせせこましい所で肩を窄めて、人に気を使いながら暮らしていることが馬鹿らしく感じてしまう。

私が外国に行く理由の一つは食べ歩きだ。基本的にはその国ならではの美味しい料理が好きだ。しかし、「まずい!」「臭い!」と思うようなメシも、それはそれで食べてみたくなる。フランスで生ガキを食べて大当たりをしたり、中国でヘビやイタチといったゲテモノを食って戻したり、という洗礼を受けるのだけれども、それでも何故かまた、その手のものを食いたくなるのだから不思議だ。個人差があると思うが、私にとっては味そのものよりも体験の魅力が勝るといことだろう。

私の外国が好きなのもう一つの理由は、ちょっとした会話のコミュニケーションや、会話が通じなくても表情やジェスチャーによるノン・バーバルなものも含めて、外国人とのコミュニケーションが心地よいと感じるからだ。私は、その国の言葉を喋られなくても構わず外国に行く。長期間に亘ってそこで暮らしたり仕事をしたりするのなら話は別だが、旅行するくらいなら、喋られないことが大きな障壁になることはないからだ。

これもフランスに行くと、あるブティックから出る時、扉を開けると割と強い雨が降っていた。そこに通りかかったマダムが「雨ね」というような表情をした。私は「J'y vais (ジベ)」と言った。雨に構わず、傘をささずに行きますという意味だ。しかし、初対面の相手にジという表現はおかしい。「y (イ)」は「そこに」という代名詞であり、初対面のマダムからしたら「どこに?」と思っただろう。ここは「Je vais (ジュベ) (私は行く)」でいいのであるが、代名詞を動詞の前に置き、しかも主語と繋げて読むこのフランス語らしい語彙を私は使ってみたかったのだ。マダムも、私の稚拙なフランス語を微笑ましく受け取ってくれ、「Allez-y (アレジ)」と言ってくれた。「y」を曖昧にしたままの粋なやり取りである。

「富山湾を愛する会」の講話で石森先生が「merci (メルシー)」というフランス語の言葉の中には「mer (メール)」=「海」が入っていると仰った。尤も、海が語源であるということを使った訳ではなく、海という言葉が入っていて好きだというようなお話だったと記憶している。確かに「merci」の語源として一般的な説明は、慈悲や情けを基にした、ラテン語の mercedem から来ているというものだが、もしかしたら石森先生のみなら

ず、古代のフランス人の merci のイメージは、母なる海のような慈悲深いものに起因したものなのかもしれない、と思った。そういえば母もフランス語では mère (メール) である。

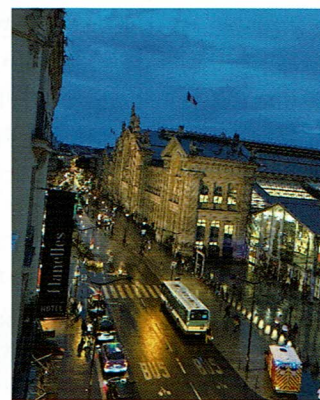
日本語は世界でどの語族にも属さない特異な言語と言われるが、それでも母音ももたらすイメージや喋り方の表現によって感情を読み取ることが出来ることなど、世界と共通するところも沢山ある。江戸っ子が「大変だ」を「てえへんだ」と表現するのと、フランス人が「maison」を「メゾン」と発音するのは同じ仕組みではないか。

要するに、違うと思えば違ってしまうし、一緒だと思えば一緒に思える。私が、その国の言葉が喋られなくても外国に行くことに一つも躊躇しない理由である。

Google 翻訳なんか要らない! 便利さは好奇心を退化させる。好奇心は成長の一番の原動力だ。体一つで、外に出よう!



セーヌ川とエッフェル塔
地下鉄が一目に見えるお気に入りの場所



パリ北駅 駅前の雑踏と活気



Le miroir d'eau ボルドーの世界遺産

1 はじめに

2025年の活動をふり返ります。年間計画どおりに、藻場づくり、歴史探訪街歩き、「海藻万華鏡教室」の開催、自主セミナーを行いました。

実験的藻場づくりでは射水市海老江海岸における月一回の潜水調査(藻場の状況視察、撮影、海藻の試料採取)、植物プランクトンの珪藻観察、実験資材の維持管理、食害生物ウニの駆除を実施しました。当海域は砂浜海岸で冬に大きな波が来るところですが小型海藻のテングサと生命力旺盛なイソモクは大きな群落をつくり海中林を形成しました。この海ではテングサやイソモクのほか、石灰藻、ミル、アオサ、フクロノリ、ヤツマタモクなどを目にします。海藻には魚をはじめいろんな生物が棲みついて海を豊かにしていますがそうした中でも重要な働きをするのが植物プランクトンの珪藻です。今年も海老江の海で多彩な美しい珪藻に出会いました。

郷土の歴史を探る街歩きは越中三大山城のひとつ増山城址を訪ねました。高岡市下山田に集合して、亀山城跡への登山口から縄張りをめぐる道(七曲り)を経て城下町土塁址に到着。和田川背後の丘陵を望み、在りし日の増山城を想いました。500年の時間を遡り、芹谷野(せんだんの)の戦い¹⁾の場となり、覇権を争った一向一揆衆、神保長職²⁾(ながもと)、上杉謙信らの夢の場であったこの一帯は歴史探訪のロマンに満ちた場所でした。

「海藻万華鏡教室」を射水市下村小学校で開催しました。海藻おしば協会の高山優美氏を講師に迎えて海の環境と海藻の役割を学び、富山湾の海藻をオブジェクトにした万華鏡をつくって鏡の中の不思議な世界を楽しみました。

年末の自主ゼミでは1年をふりかえり当会の活動や最近の社会事情について理事3人が自由な感想や意見を陳述しました。

2025年は戦後80年の節目の年で昭和の100年にあたるということでした。この100年は実にさまざまな事件が起こりましたが地球の温暖化もその一つ。そういえば今夏の暑さは異常で、まるで熱帯にいるようでした。気象庁によると気温は100年間で1.44℃上昇し海面水温は1.33℃の上昇、今夏6～8月平均気温は過去最高を記録したということでした。

2 藻場づくり

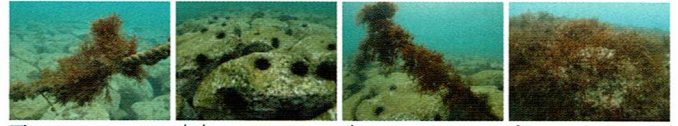
2.1 実施場所

藻場づくりの場所を図1に示します。図中①から④の実験箇所には母藻を移植した場所が平均3箇所あり、1年間に撮影した約3000枚の写真から代表的なものを選んで採録しました。各写真は海底を這いながらの目線で撮影された記録で藻場づくり現場の様子が臨場感たっぷりに伝わってきます。水中写真は太田希生会員(水中カメラマン)が撮影しました。



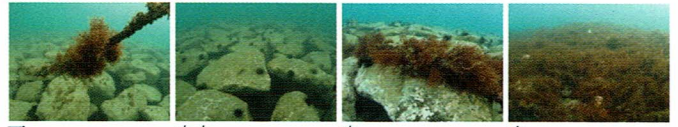
図1 藻場づくりの場所
①西 ②中央 ③東 ④南
藻場づくりの海(2025.11.22)

1月(2025.1.23)水温14℃



西 中央 東 南

2月(2025.2.17)水温12℃



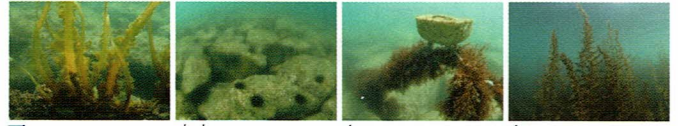
西 中央 東 南

3月(2025.3.21)水温10℃



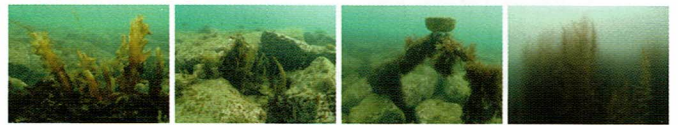
西 中央 東 南

4月(2025.4.26)水温13℃



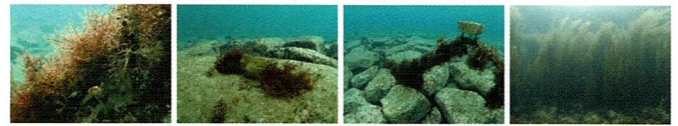
西 中央 東 南

5月(2025.5.29)水温18℃



西 中央 東 南

6月(2025.6.22)水温20℃



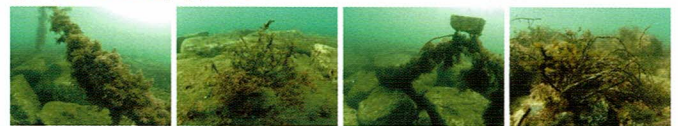
西 中央 東 南

7月(2025.7.19)水温24℃



西 中央 東 南

8月(2025.8.26)水温30℃



西 中央 東 南

9月(2025.9.27)水温27℃



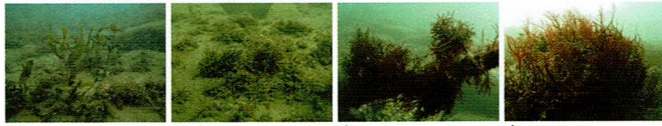
西 中央 東 南

10月(2025.10.31)水温21℃



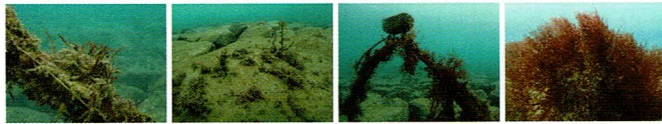
西 中央 東 南

11月(2025.11.22)水温17℃



西 中央 東 南

12月(2025.12.30)水温14℃



西 中央 東 南

2.2 藻場の海藻

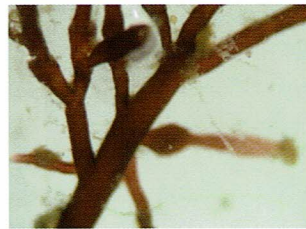
富山湾奥一帯は砂浜海岸でした。富山新港の誕生と周辺の海岸整備事業により海老江の海岸に潜堤が築造され海浜公園が誕生しました。藻場づくりの実験はこの潜堤(人工リーフ)で実施しています。冬には寄り回り波(高波)が来襲する場所で海藻の生育は厳しいと知りながらも、天から降ってきた岩場を放っておく手はないと始めたものです。「荒れ地に木を植える男」(自然の再生と未来を描いたJ.Gionoの小説名 "L'Homme qui plantait des arbres")を地で行くように海藻の植栽はたいへん難しいもので、根付いたかと思えばすぐ消失してしまいました。それでも挑戦のやり甲斐があつてか小型海藻のテングサ(紅藻のマクサやオバクサ)が群落をつくり、生命力の旺盛な褐藻イソモクが海中林を形成しました。

2025年度のテングサとイソモクの生活を見てみます。両者とも水温の影響を強く受け、冬場(平均水温11～22℃の10月下旬から6月下旬まで)は活力に満ちて元気ですが、夏場(平均水温22～30℃の6月下旬から10月下旬)は活力を失い夏枯れ状態になります。

テングサは上掲の写真が示すように冬場は元気で、夏場は元気がありません。紅藻の赤の色合いから生命力が感じられ暑くなると色は褪せ付着物が増えてすっかり変色してしまいます。4月頃からテングサ場に新たにワカメが加わりました。たしか2019年と2020年にワカメ種苗を投入しましたがその種が発芽したとも思えず両者の関係は不明のままです。6月の観察ではテングサの繁殖域が前浜から潜堤へ向かい前進していました。この調子で潜堤へ拡がってくれることを期待したいものです。生殖に関連して8月にマクサの四分孢子托と嚢果を観察し、10月には四分孢子托にできた赤い沢山の孢子細胞を見ました。孢子は成長してやがて群落に加わるのでしょう。

イソモクも冬場をとおして順調に生育し5月、6月には見事な海中林を形成しましたがその後の水温上昇で元気を失い8月、9月には完全に夏枯れ状態となりました。しかし10月にはまた回復しはじめ、11月には新芽が30cm以上に成長して群体を形成し始めました。

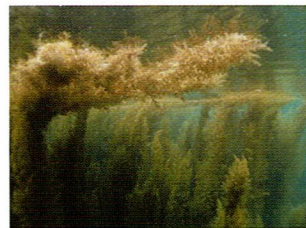
海老江の海では石灰藻(サンゴモやカニノテ)やミル、アオサ、フクロノリ、ヤツマタモクなども目にしました。



マクサの嚢果(2025.8.26)



マクサ四分孢子托(2025.10.31)



イソモクの海中林(2025.6.22)



ワカメの加入(2025.4.26)

2.3 藻場の珪藻

4種の海藻試料を採取して珪藻(diatom)を観察しています。顕微鏡で見る珪藻は多彩で美しい微小な生きものですが、光合成により糖を生産しては海の生態系を支え、二酸化炭素を海底に長期貯留して地球温暖化を緩和する働き手でもあります。小さな珪藻に注目する理由です。2025年度の珪藻観察の結果は次の通りです。

(1) テングサ試料の珪藻

冬場をとおして羽状類のオウギケイソウ(Licmophora属)、オウギケイソウに似た梯子状文様がある羽状類珪藻(Climacosphenia属)が多く、とくに冬場の1月から7月にかけて見事な群体が見られました。テングサの試料では他にも様々な種類の珪藻を観察しましたが、10月に観察した中心類のクモノスケイソウ(Arachnoidiscus属)、ヒトツメケイソウ(Actinocyclus属)、羽状類のフネケイソウ(Navicula属)の写真を掲載しました。

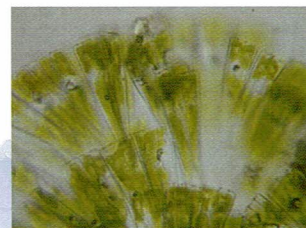
夏場に入り7月にはClimacosphenia属の群体が見られましたが、水温30℃の8月には藻体が白色化し着生珪藻は姿を消しました。9月になるとまた元気を取り戻して羽状や棒状の小型珪藻(20～50μ)が多数見られるようになりました。



マクサとLicmophora属(2025.6.22)



Climacosphenia属(2025.7.19)



Licmophora属(2025.11.22)

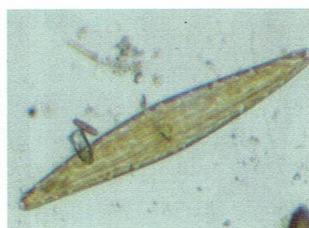


Licmophora属(60μ)

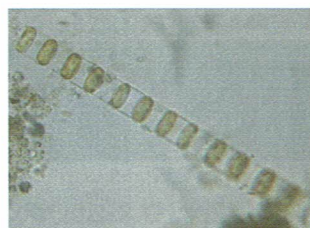
NPO法人「富山湾を愛する会」活動の1年



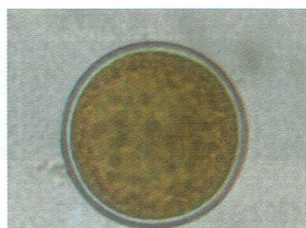
Actinocyclus属 (40 μ)



Navicula属 (300 μ)



セボネケイソウ (Skeletonema属) (15 μ)



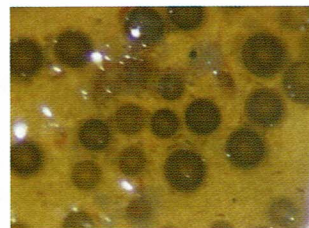
Actinocyclus属 (35 μ)

(2) イソモク試料の珪藻

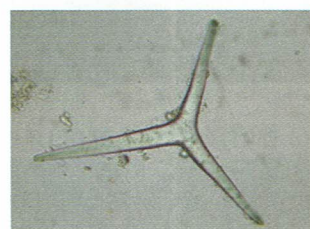
イソモクの葉上では1年中(8~10月を除く)クモノスケイソウが観察されました。とくに葉状体下部の古い葉に蝟集する円心目珪藻には眼を見張るものがあります。単細胞生物の珪藻は細胞分裂で増えていきますが分裂のたびにサイズが小さくなります。中央の写真に映る大小さまざまな珪藻の存在は彼らの生活史を物語っているようです。



蝟集するArachnoidiscus属 (2025.7.19)



左図の部分拡大図 (2025.11.22)



カニノテ着生の星型珪藻³⁾ (Centronella属か) 腕長不等 (80 μ)



ササノハケイソウ (Nitzschia属) 細胞分裂を示す帯面観か (150 μ)



分裂する細胞 中心類珪藻 (25 μ)



潜堤の付着藻とウニ (2025.2.17)



Arachnoidiscus属 (100 μ)



イソモクの群落 (2025.5.29)

(4) ミル試料と珪藻

ミル(海松)が5月から実験海域に新規加入してきました。ミルの藻体表面は多数の小さな細胞(小囊)に覆われてぬめり(mucus)があり小さな珪藻にとって格好の棲家になっています。



新規加入したミル (2025.5.29)



ミルの小囊と共棲珪藻 (2025.12.30)



Nitzschia属 110 μ (2025.9.27)



ミルの共棲珪藻 40 μ (2025.9.27)

(3) 石灰藻(サンゴモとカニノテ)試料の珪藻

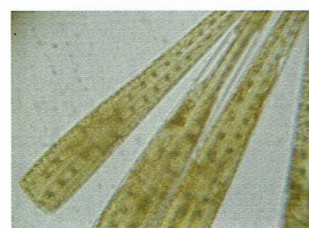
当実験域の潜堤で生育しつづけた藻類はサンゴモ類だけです。石灰層は海藻らしくありませんが光合成を行う立派な藻類で二酸化炭素を吸収するブルーカーボンとして注目を集めるようになっています。潜堤ではウニが目立ちます。多分この石灰藻が餌になっているのでしょう。石灰藻は夏枯れもなさそうで、そのため着生珪藻が種・量ともに多いのかもしれませんが。



サンゴモに付着する珪藻 (2025.7.19)



カニノテと珪藻 (2025.11.22)



クリマコスフェニア属 100 μ



分裂中のタルケイソウ (Melosira属)

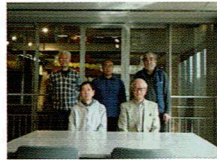


3 富山湾を愛する会1年のあゆみ

- (1) 月例で藻場観察を実施しました(年間)
- (2) ウニの駆除作業を行いました(2025.2.17)
- (3) 会誌『富山湾』16号を発行しました(2025.3.27)
- (4) 第1回理事会(2025.4.12)と通常総会(2025.5.1)を開催しました



大田会員
(海老江海岸、2025.2.17)



第1回理事会
(川の駅2025.4.12)



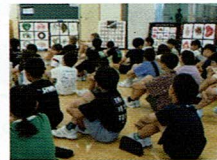
総会 (川の駅、船上会議、
2025.5.1)

- (5) 「射水市豊かな海を愛する会通常総会」
(射水市役所大島分庁舎、2025.5.27)
- (6) 「海藻万華鏡教室」を開催しました
(射水市下村小学校2025.7.10)

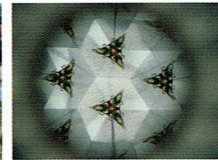
海藻おしば協会の高山優美先生を講師に迎え、海藻の役割と海洋環境保全の意義を学びました。つづいて実際の海藻をオブジェクトにした万華鏡を制作して鏡の中の美しく不思議な世界を楽しみました。参加者は全児童50名、教職員ほか14名でした。



元気一杯な高山優美先生



説明に聞き入る
下村小学校生徒50名

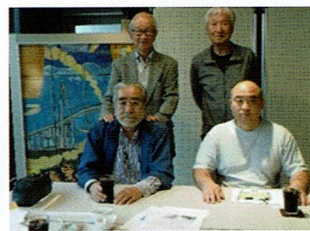


鏡の中の世界

- (7) 第2回理事会を開催しました(川の駅新湊、2025.10.11)



藻場観察(海老江海岸2025.8.26)



第2回理事会(川の駅2025.10.11)

- (8) 歴史探訪街歩きと懇親会を開催しました(2025.11.1)

河合雅司氏(社・海洋会富山支部長)の案内で増山城址と城下町を見学しました。

高岡市下山田の河合家に集合して亀山不動尊、亀山城、七曲り、土塁跡、妙蓮寺塚、増山城主廓をめぐる行程でしたが、増山城が加賀藩前田家の領国になったころ河合家の祖(河合孫兵衛)が増山城「葵の門」の管理をしていたと聴き貴重な郷土史の存在を知りました。当日の資料が語る増山城防御の秘密も現地の地形を

見て納得できました。激しく蛇行する和田川と急崖をかけあがる台地地形を味方につけた戦略は見事なものです。筆者などは雨後のぬかるみの中を孫次山岩まで歩いた経験から泥濘を生む雨にも注目してみました。西暦1500年頃は小氷期⁴⁾(Little Ice Age)といわれ、現在より気温が約1℃低い時代でした。雨の日も多かったのではないかと考えられ、そうだとすれば当時の山城の防御は一層堅固だったのかもしれない、などと愚考してみました。街歩きを終えたあと河合家の土蔵に残る幕末の私塾・混放洞を見学しました。1855年に開設された漢学塾で、混放(こんぼう)という言葉のように身分の異なる人を集めては優秀な塾生を輩出したということでした。



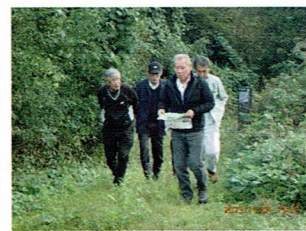
河合氏の案内で
増山城址を探訪



城下町土塁跡にて



増山城史跡に集合
(2025.11.1)



草深い山城跡をめぐる



河合家に残る幕末の私塾・混放洞

- (9) セミナーおよび忘年会を開催しました
(2025.12.6、川の駅新湊)

今年のセミナーは会活動の活性化などを仲間内で自由に語りあう場としました。まずは各理事がこの一年に感心した事、興味を感じたこと、気付いたこと、また日頃の思いなどを陳述しました。大田理事は2025年の参議院選挙でみた保守王国富山の変貌ぶりと増加する外国人問題について所感を述べました。奥川理事は射水市民の足である県営渡船の廃止へ向けた動きを紹介されました。渡船のような水面に近い視線から見る街の風情は他では味わえません。船の運航ができる人も船を建造できる人もかかえる射水市から市民の足をなくさないでほしいものです。石森理事はホームページへのアクセス(訪問)と会員の参加・協力を呼びかけ、富山湾を愛するNPO法人としての意識向上を願いました。海への関心と理解の向上をめざして海洋講座「富山と日本海」を開設しておりますが、講座12回目で大田会員は「水中カメラから見つめる富山湾の生きもの」を紹介し、水中カメラで富山湾を見ていると「豊穡の海とはなにか」を考えさせられ、海底湧水とそこの生物群集に出会うたびに「富山湾の生きものにも私たちにも同じ立山の水が流れているのだ」と海の

仲間としての愛(いと)おしさを強く感じる、と述懐していました。富山湾を愛する会の活動原点にもかかわる印象深い言葉として記憶に残っています。



大田理事
(2025.12.6、川の駅新湊)



奥川理事
(2025.12.6、川の駅新湊)



石森理事
(2025.12.6、川の駅新湊)



セミナー(2025.12.6、川の駅新湊)



忘年会(2025.12.6、川の駅新湊)

4 海老江海岸の海浜植物

富山湾沿岸の生物多様性を維持する観点から海浜植物の保護育成に取り組んでいます。

海老江海浜公園西側の前浜にあるハマゴウ群落では匍匐茎が密集するまでに成長し、今年も7月に青い花を咲かせ秋に沢山の実をつけました。芳しいハマゴウは浜香とも表記され、太平洋のハワイなどでは薬草として利用されていました。面白いことにハマゴウの群落に混じっていつもハマボウフウが2株だけ育っています。ハマボウフウについては牧野富太郎が「植物記」⁵⁾の中で海岸にある野生植物で食用になると書いています。海老江海岸の遊歩道沿いにはハマナス、タブノキ、シャリンバイ等が植林されていますが砂浜を歩くと自生したハマゴウやハマボウフウを見かけることが多くなりました。



ハマゴウ(海老江海岸2025.7.19)



ハマゴウの花(2025.8.1)



ハマボウフウ(海老江海岸2025.5.20)



タブノキとシャリンバイ
(海老江海岸2026.3.6)

5 おわりに

無茶苦茶な戦争やトランプ旋風をよそ目に新湊の2025年は平和裏に静かに過ぎてゆきました。藻場の映像を視聴して始まった夏の「海藻万華鏡教室」は鏡の中の不思議な世界を体験できる有意義な時間でした。歴史探訪街歩きでは中世の山城跡を訪ね郷土にかかわる身近な歴史を学びました。500年の歴史を探るにはどうしても時空を超える想像力が要るようです。湿原大地だった射水平野を当時の人はどのように移動したのであろうか、徒歩か馬か舟だろうが大変な難儀をしたことであろう。増山城に詰める武士の数はいかほどだったのか、城下町に住む住民の構成はどうか、城下町に産業は興ったのだろうか、往来の要所というが宿場はあったのか、水路を用いた放生津(港)との往来はどうか、などあれこれ考え山路を歩きました。セミナーの渡船問題で思い出すのは38豪雪でした。雪のため道の往来がままならぬとき商船学校の生徒がボートで米を運び窮地を救った話です。東南海地震や異常気象にどう備えるのか防災グッズの準備も大切ですが、陸の生活に慣れきった固定観念から抜けだして海も視野に入れた賢い防災対策を講じたいものです。

今年も本事業を行うにあたり多くの方のご支援とご協力を頂きました。全漁連漁政環境生態系チーム、海藻おしぼ協会の高山優美氏、射水市下村小学校上田校長ならびに教職員、射水市豊かな海を愛する会の皆様には海洋教室の開催で大変お世話になりました。歴史探訪街歩きでは海洋会富山支部長河合雅司氏ご夫妻の温かいご協力をいただきました。富山県水産漁港課、富山県水産研究所職員の方々には藻場づくりのご指導とご理解を頂きました。「鮭しゅんじ」店主の橋場俊治氏からは海洋環境保全の活動資金として多大なご寄付を頂戴しました。以上の関係各位にあらためて衷心よりの感謝を申し上げます。

- 註 1) 富山大百科事典編集事務局、『富山大百科事典』、北日本新聞社、1994
2) 重杉俊雄、長島勝正 他、『風土記とやま』、北日本放送株式会社、1969
3) F.E.Round, R.M.Crawford, D.G.Mann, "the diatoms", Cambridge Press, 1990
4) Doug Macdougall, "Frozen Earth", University of California Press, 1994
5) 牧野富太郎『植物記』、バベル社、2013

残念なお知らせですが、長年にわたり当会の運営に尽力された雨宮洋司会員が年末の大晦日に逝去されました。新湊をこよなく愛し、歴史探訪街歩きの案内や港湾事情の講演をひきうけてもらいました。一昨年には「私の新みなと観」を上梓し、富山新港を核とした街づくりに期待を寄せていました。海と船をこよなく愛した友を偲び、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします(合掌)

富山湾を愛する者が集い、魅力ある「未来とやま」「安心とやま」の事業構成に貢献します。

NPO法人 富山湾を愛する会

〒934-0037 富山県射水市片口久々江字錦674-2 (株)北陸ポートサービス内
TEL : 0766-86-3377 FAX : 0766-86-3737
URL : <http://www.merci-toyama.jp/>

発行年月日：2026年3月27日